

都市再生整備計画 事後評価シート

やいづ いんたーちえんじしゅうへんちく
焼津IC周辺地区

平成23年3月

静岡県やいづし焼津市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	静岡県		市町村名	焼津市		地区名	焼津IC周辺地区			面積	120ha		
交付期間	平成18年度～22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	2778.5百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園(街区公園1箇所)、地域生活基盤施設(市内案内看板設置事業等)、土地区画整理事業(大覚寺八楠土地区画整理事業)										
		提案事業	地域創造支援事業(にぎわい通り創出、リバーサイド遊歩道整備)、事業活用調査(まちづくりインフォメーションセンター実験、交通状況調査)、まちづくり活動推進事業(まちの顔づくり専門家派遣)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	-									
		提案事業	なし	-									
	新たに追加した事業	基幹事業	なし	-									
提案事業		地域創造支援事業(定住促進宅地造成事業)	浸水被害の頻度の高い大覚寺八楠土地区画整理区域において、盛土を伴う宅地造成を行うことで、住環境を改善し人口の増加を図る。平成19年3月に計画変更して追加				指標「定住人口」を改善する効果あるが指標は据え置く。						
	提案事業	地域創造支援事業(定住促進広報事業)	大覚寺八楠地区の魅力について広報活動を行うことにより、保留地販売を促進し、地区住民としての定住を図る。平成19年3月に計画変更して追加				指標「定住人口」を改善する効果あるが指標は据え置く。						
交付期間の変更	当初	平成18年度～22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
	変更	-		-		-							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	定住人口	指数	100(2,845人)	H17	108(3,072人)	H22	109(3,107人)	116(3,304人)	○	あり なし	区画整理事業による街路整備や定住促進広報事業による保留地販売促進により住民の流入が進んだため、期待以上の成果を上げる事ができた。	H23.4
	指標2	公民館利用者数	指数	100(27,824人)	H17	120(33,388人)	H22	169(47,023人)	172(47,789人)	○	あり なし	区画整理事業による近隣の街路整備や、地区内人口の増加により利用者数が増加した。	H23.4
指標3	さかなセンター利用者数	指数	100(1,507,051人)	H17	105(1,582,403人)	H22	109(1,645,696人)	108(1,627,829人)	○	あり なし	事業により近隣が整備されたことや、情報発信により来訪者が増加したことで利用者数が増加した。	H23.4	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	業務系建築物建築件数	件	52	H13～H17 5年間計		50(H18～H21) 4年間計	64(H18～H22) 5年間計			大覚寺八楠土地区画整理事業の進捗や、適正な土地利用により業務系建築物建築件数が増加した。	H23.5		
4)定性的な効果発現状況	大覚寺八楠土地区画整理事業区域の中央を東西に横断する六間川沿いに遊歩道を整備したことで散歩等を楽しむ住民が増え住民同士の交流が深まった。街路樹に関するワークショップを重ね、協働管理を進めたことにより、住民と行政の対話する機会が増え、行政職員のコミュニケーション能力が高まった。												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	焼津IC周辺地区まちの顔づくり推進委員会 焼津IC周辺地区まちづくり交付金事業推進委員会				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	・焼津中部地区においてもモニタリングを実施し、事業期間途中での効果を検証していく。	
	住民参加プロセス	①ワークショップによる計画づくり ②街路樹の運営管理の仕組みづくり ③運営管理の年次計画と利活用方法の検討 ④今後のまちづくりに向けた準備 ⑤大覚寺2号公園ワークショップ				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● ● ●	①～④ ⑤ ・地元住民の街路樹管理活動を支援し、市と地元住民とで協働管理を行っていく。(①～④) ・公園の清掃等維持管理について、住民参加により実施してもらえるようワークショップメンバー及び地元自治会へ依頼する。(⑤)	
		持続的なまちづくり体制の構築	街路樹の管理運営を行う地元の方たちの組織化				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	・街路樹管理のためのワークショップにより、街路樹管理のための地元住民による組織を構築できた。今後、地元住民を中心に市は支援する形で協働管理していく。

様式2-2 地区の概要

焼津IC周辺地区(静岡県焼津市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 焼津インターチェンジに隣接する立地条件を生かし、まちの顔づくりと多様な交流による活気ある街づくりを進める。 目標1: 来訪者に誇れる住民がすごしやすい焼津インターチェンジ周辺顔づくり 目標2: 住民間のコミュニケーションあふれる活気あるまちづくり	定住人口	単位: 指数	100 (2,845人)	H17	108 (3,072人)	H22	116 (3,304人)	H22
	公民館利用者数	単位: 指数	100 (27,824人)	H17	120 (33,388人)	H22	172 (47,789人)	H22
	さかなセンター入場者数	単位: 指数	100 (1,507,051人)	H17	105 (1,582,403人)	H22	108 (1,627,829人)	H22
	業務系建築物建築件数	単位: 件数	52	H13~17		H	64	H18~22



区画整理事業



リバーサイド遊歩道整備



にぎわい通り街路樹ワークショップ



大覚寺2号公園

まちの課題の変化

- ・区画整理事業の進捗により、焼津の陸の玄関にふさわしい都市整備が進んでいる。
- ・定住促進広報事業及び市内案内看板設置事業並びにまちづくりインフォメーションセンター実験事業により、まちの情報発信が行われている。
- ・まちの顔づくり専門家派遣事業により進められているにぎわい通り街路樹の協働管理を通じて住民の交流が促進されている。
- ・リバーサイド遊歩道事業及びにぎわい通り創出事業により、まちの景観整備及び河川空間等を活かした歩行者空間のネットワーク形成が進んでいる。
- ・土地区画整理事業による幹線道路及び区画道路整備により、交通利便性が改善している。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

広報、公民館だより等により、地区内でのイベント情報や交通利便性を利点とした保留地の販売情報等を発信していく。街路樹を地元住民と市とで協働で管理することによってまちの景観を維持し、住民の交流を促進していく。形成された歩行者空間ネットワークを市開催のウォーキング大会の会場に利用するなど健康づくりやにぎわいづくりに活用していく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園	大覚寺2号公園	48	0.25ha	48	0.25ha	なし	—		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	市内案内看板設置	3	案内看板設置	3	案内看板設置	なし	—	●	
地域生活基盤施設	同時通報無線子局設置	4	1箇所	4	1箇所	なし	—		●
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)	大覚寺八幡土地区画整理事業	2,342	48.9ha	2,317	48.9ha	事業費の精査	影響なし		●
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	にぎわい通り創出	3	L=553m	2.5	L=553m	事業を実施した結果、計画との差が生じたため減額する。	影響なし	●	
	リバーサイド遊歩道整備	50	L=2,560m	57	L=1,650m	事業内容を見直し区間を短くした。また、維持管理を考慮し、整備内容を変更した。	指標「定住人口」を改善する効果があるが、指標は据え置く		●
	定住促進宅地造成事業	—	—	299	A=86,690㎡	浸水頻度の高い地区であるため、新しく盛土を伴う宅地造成を行うことで住環境を改善し、人口の増加を図る。	指標「定住人口」を改善する効果があるが、指標は据え置く		●
	定住促進広報事業	—	—	12	大覚寺八楠地区	広報活動を行うことにより、保留地販売を促進し、地区住民の定住を図る。	指標「定住人口」を改善する効果があるが、指標は据え置く		●
事業活用調査	まちづくりインフォメーションセンター 実験	11	さかなセンター内	2.6	さかなセンター内	平成20年度以降、事業主体が焼津市でなくなったため、減額する。	影響なし	●	
	交通状況調査	10	交通状況調査	8	交通状況調査	事業を実施した結果、計画との差が生じたため減額する。	影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業	まちの顔づくり専門家派遣事業	25	ワークショップ開催	25	ワークショップ開催	なし	—		●

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
土地区画整理事業(特会)		大覚寺八楠	2,884	2,884	平成6年～平成20年	平成6年～平成23年	100%/H22末見込	
土地区画整理事業(地方特定)		大覚寺八楠	1,542	1,542	平成6年～平成20年	平成6年～平成23年	100%/H22末見込	
土地区画整理事業(公園公管金)		大覚寺八楠	2,986	2,986	平成6年～平成17年	平成6年～平成17年	100%/H22末見込	
土地区画整理事業(市単独)		大覚寺八楠	3,887	3,887	平成6年～平成20年	平成6年～平成23年	97%/H22末見込	
事業活用調査		さかなセンター内	6	6	平成20年～平成22年	平成20～平成22年	100%/H22末見込	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度			基準 年度		目標 年度		モニタリング	確定 見込み	事後評価	あり	なし		
指標1	定住人口	指数	H22.8.31の住民基本台帳人口統計情報データと過去4年間の傾向から評価基準日(H23.3.31)の地区内人口を推計し、これを従前値を100とした指数化し評価値とする。	87 (2,468人)	H12	100 (2,845人)	H17	108 (3,072人)	H22	モニタリング	H21	109 (3,107人)	モニタリング	○		
										事後評価	確定 見込み ●	116 (3,304人)	事後評価	○		
指標2	公民館利用者数	指数	H22.4.1からH22.8.31までの公民館利用者数を計測し、その数値を基に過去4年間の傾向から平成22年度の公民館利用者数を推計し、これを従前値を100とした指数化し評価値とする。	129 (35,969人)	H12	100 (27,824人)	H17	120 (33,388人)	H22	モニタリング	H21	169 (47,023人)	モニタリング	○		
										事後評価	確定 見込み ●	172 (47,789人)	事後評価	○		
指標3	さかなセンター入場者数	指数	H22.4.1からH22.8.31までのさかなセンター入場者数を「月別入場者数及び観光バス台数実績表」から計測し、その数値を基に過去4年間の傾向から、平成22年度の入場者数を推計し、これを従前値を100とした指数化し評価値とする。	119 (1,794,600人)	H12	100 (1,507,051人)	H17	105 (1,582,403人)	H22	モニタリング	H21	109 (1,645,696人)	モニタリング	○		
										事後評価	確定 見込み ●	108 (1,627,829人)	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	現在の数値が目標値を大幅に超えており、また、人口は増加傾向にあるため評価基準日(H23.3.31)時点で目標達成見込みと判断した。	
指標2	計測時点の数値が過去と比較し増加傾向であり、評価基準日まで同様の傾向が続くと予測されることから目標達成見込みと判断した。	
指標3	計測時点の数値が過去と比較し増加傾向であり、評価基準日まで同様の傾向が続くと予測されることから、目標達成見込みと判断した。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	H18～H21 (4年間)	事後評価			
その他の 数値指標1	業務系建築物建築件数	件	平成18年度～平成22年度まで の5年間の焼津IC周辺地区にお ける住居専用建築物以外の建 築確認申請件数の合計	-	-	52	H13～ H17の 計	モニタリング	H18～H21 (4年間)	50	焼津の玄関口としてふさわしい土地 利用となっているか、業務系建築物 の建築件数で測るため。	
							事後評価	確定 見込み ●	64			
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

大覚寺八幡土地区画整理事業区域の中央を東西に横断する六間川沿いに遊歩道を整備したことで散歩等を楽しむ住民が増え住民同士の交流が深まった。
街路樹に関するワークショップを重ね、協働管理を進めたことにより、住民と行政の対話する機会が増え、行政職員のコミュニケーション能力が高まるとともに、今後住民による街路樹管理の可能性が開けた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
○焼津10周辺地区まちの顔づくり推進委員会（庁内横断組織、関係部局の部長級職員で構成。計画管理、進行管理を行う。）	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった</p>	<p>●</p> <p>【実施頻度】平成18年度以降毎年度1回 【実施時期】H19.2.23、H20.2.6、H21.10.20 【実施結果】事業が順調に進んでいることを確認した。</p>	必要なものについては、継続的に指標数値を把握・評価する。
焼津10周辺地区まちづくり交付金事業推進専門委員会（学識経験者、住民代表による委員会。計画の進行管理・指標達成に関する助言、住民参加のまちづくり活動に関する助言などを行う。）	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった</p>	<p>●</p> <p>【実施頻度】平成18年度以降毎年度1回 【実施時期】H19.2.23、H20.2.6、H21.3.10、H21.11.9 【実施結果】毎年度様々な意見が出され、それを可能な範囲で次年度に反映させている。</p>	必要なものについては、継続的に指標数値を把握・評価する。

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
ワークショップによる計画づくり	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>●</p> <p>街路樹を選ぶワークショップ 【実施頻度】計4回 【実施時期】平成18年10月～平成19年1月 【実施の効果】 東名高速道路沿いの区画道路（にぎわい通り）に植樹する樹種を地元住民参加ワークショップにより決定。住民自らが選定した街路樹を植樹したことにより、この地区に対する愛着が高まった。</p>	地元住民の街路樹管理活動を支援し、市と地元住民とで協働管理を行っていく。
街路樹の運営管理の仕組みづくり	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>●</p> <p>にぎわい通り街路樹ワークショップ 【実施頻度】計4回 【実施時期】平成19年9月～平成20年1月 【実施効果】 H18年度に植樹したキンカン、キンモクセイの管理、活かし方について、地元住民参加ワークショップにより検討した。結果、にぎわい通り管理グループ分け、街路樹管理カレンダーが完成した。また、協働管理の取り決めや焼津市との覚書について検討した結果、平成20年3月に調印式を実施した。</p>	地元住民の街路樹管理活動を支援し、市と地元住民とで協働管理を行っていく。
運営管理の年次計画と利活用方法の検討	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>●</p> <p>にぎわい通り街路樹ワークショップ 【実施頻度】計3回 【実施時期】平成20年10月～平成21年2月 【実施効果】 協働管理の取り決め（覚書）及び管理カレンダーにより3年計画、管理内容の点検を実施。先進地事例研修により地元住民参加の意識が向上した。 また、新規参加者の募集のため、ニュースターにより剪定及び肥料の散布とキンカン料理のワークショップの公募を行い、多くの参加者によるワークショップが開催できた。</p>	地元住民の街路樹管理活動を支援し、市と地元住民とで協働管理を行っていく。
今後のまちづくりに向けた準備	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>●</p> <p>にぎわい通り街路樹ワークショップ 【実施頻度】計5回 【実施時期】平成21年10月～平成23年3月 【実施効果】 成木管理開始までに行えるべきことを確認し管理体制を整える。 キンカン管理の参加者の拡大を目指す。 来年度以降の活動内容を具体的に考える。 キンカンの活用方法を確認する。</p>	地元住民の街路樹管理活動を支援し、市と地元住民とで協働管理を行っていく。
大覚寺2号公園ワークショップ	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>●</p> <p>大覚寺2号公園ワークショップ 【実施頻度】計4回 【実施時期】平成21年7月～平成21年8月 【実施効果】 公園の利用イメージを地元住民と話し合い、公園の設計に意見を反映させることができた。また、ワークショップで、実際に考えた計画案の広さや位置関係を現地で確認することにより完成時をイメージし、計画案をより良いものにすることができた。</p>	公園完成後の維持管理について地元と話し合いを進めている。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
にぎわい通り街路樹の管理運営を行う地元の方たちの組織化を図る。	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった</p>	<p>●</p> <p>まちの顔づくりワークショップを開催し、街路樹の管理方法を身に付け、管理体制を築いていく。</p>	にぎわい通り管理部会	設立された管理部会の活動を助け、市と管理部会とで協働管理を行っていく。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
焼津IC周辺地区まちの顔づくり推進委員会及びワーキンググループ 焼津IC周辺地区まちの顔づくり評価委員会	関係部課長(主幹・係長クラスで構成するワーキンググループを設置) 関係部課長による評価委員会を設置	H22.10.20 H22.11.8	区画整理課・企画調整課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	その他の数値指標1		
指標名		定住人口	公民館利用者数	さかなセンター入場者数	業務系建築物建築件数		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	公園(街区公園)・大覚寺2号公園	◎	土地区画整理事業による基盤整備や定住促進広報事業による保留地販売の促進により、新規住民の流入が促され人口が増加したため、地域住民のコミュニケーションの機会も増加した。また、土地区画整理事業の進捗により、商業施設、医院等、市民生活に有益な施設が整備され住民がしやすいまちになった。	—	土地区画整理事業により地区の人口が増加しているため、それに伴い公民館の利用者数も増加し、地域住民のコミュニケーションが深まった。	—	土地区画整理事業により、商業施設、医院等、市民生活に有益な施設が増えたため、住民がしやすいまちになった。また、インターチェンジに隣接した立地条件を定住促進広報事業により周知することができた。
	地域生活基盤施設(市内案内看板設置)・焼津インターチェンジ周辺他	○		—			
	地域生活基盤施設・同時通報無線子局整備	○		—			
	土地区画整理事業・大覚寺八幡土地区画整理事業	◎		◎			
提案事業	地域創造支援事業(にぎわい通り創出)・東名高速沿い区画道路	○	◎	—	—	—	
	地域創造支援事業(リバーサイド遊歩道整備)・六間川沿い	○	○	—	—	—	
	地域創造支援事業(定住促進宅地造成事業)・大覚寺八幡地区	◎	◎	—	—	◎	
	地域創造支援事業(定住促進広報事業)・大覚寺八幡地区	◎	○	○	—	◎	
	事業活用調査(まちづくりインフォメーションセンター実験)・さかなセンター内	○	—	◎	—	—	
	事業活用調査(交通状況調査)	○	—	—	—	—	
関連事業	まちづくり活動推進事業(まちの顔づくり専門家派遣)	○	◎	—	—	○	
	土地区画整理事業(基本事業)	◎	◎	—	—	◎	
	土地区画整理事業(地方特定)	◎	◎	—	—	◎	
	土地区画整理事業(公園公管金)	◎	◎	—	—	◎	
	土地区画整理事業(市単独)	◎	◎	—	—	◎	
	事業活用調査	—	—	◎	—	—	

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	その他の数値指標1
	土地区画整理事業、定住促進広報事業により地区の素晴らしさをアピールし、更なる人口の増を目指す。	土地区画整理事業による基盤整備や、地元のイベントを行うことにより更なる利用者数の増を目指す。	経済状況の影響を受けやすいため、入場者数は増減するが、現状維持及び入場者数の増加を広報活動等を通して維持していく。	土地区画整理事業、定住促進広報事業により更なる建築件数の増を目指す。

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
焼津IC周辺地区まちの顔づくり推進委員会及びワーキンググループ	焼津IC周辺地区まちの顔づくり推進委員会:関係部局の部長級職員 焼津IC周辺地区まちの顔づくりワーキンググループ:関係部局の主幹、係長級職員	平成22年10月20日	区画整理課、企画調整課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
◇焼津の陸の玄関としての顔づくり ・まちの情報発信、景観整備	区画整理事業の進捗により、焼津の陸の玄関としての顔にふさわしい都市整備が進んでいる。定住促進広報事業及び市内案内看板設置事業並びにまちづくりインフォメーションセンター実験事業により、まちの情報発信が行われている。 まちの顔づくり専門家派遣事業により進められているにぎわい通り街路樹の協働管理やリバーサイド遊歩道整備事業により、まちの景観整備が進んだ。		・区画整理により建物が立ち並び見通しの悪い交差点が増えたため、カーブミラーの設置を望む意見がある。 ・街の整備に街路灯や防犯灯の設置が追い付いていないため、設置を望む意見がある。
◇地域コミュニティの再生 ・新旧住民の交流の促進、転入者への生活ルールの浸透、住民が集える場や機会づくり	まちの顔づくり専門家派遣事業により進められているにぎわい通り街路樹の協働管理を通じて住民の交流が促進されている。		
◇自然環境を生かしたまちづくり ・河川空間等を活かした歩行者空間のネットワークの形成	リバーサイド遊歩道整備事業及びにぎわい通り創出事業により、河川空間等を活かした歩行者空間のネットワーク形成が進んだ。		
◇交通利便性の改善 ・焼津駅と当地区を結ぶ公共交通の強化、総合福祉会館・焼津さかなセンターと市内主要施設を結ぶ公共交通の強化	土地区画整理事業による幹線道路及び区画道路整備により、交通利便性が改善している。 公共交通の強化については、地区内と駅及び市内主要施設間の交通利便性を向上させ、地域の人が満足する施策立案を目的とする交通状況調査を行い、調査結果をもって庁内バス路線対策所管課に改善を提案し、焼津市地域公共交通総合連携計画を策定中である。		

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

		効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策		交通利便性を活かしたまちの情報発信	地区のイベント情報や保留地販売情報等を発信していく。	広報、公民館だより発行事業 定住促進広報事業
		まちの景観を活かした地元のコミュニティ活動の促進	街路樹を地元住民と市とで協働で管理することによってまちの景観を維持していく。また、住民の交流を促進していくため、管理作業に必要な資材を支給し、にぎわいどおり街路樹管理部会を支援していく。	緑化推進助成事業
		歩行者空間ネットワークの活用	形成された歩行者空間ネットワークを市開催のウォーキング大会の会場に利用するなど健康づくりやにぎわいづくりに活用していく。	健康づくりウォーキング事業
		改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		見通しの悪い交差点へのカーブミラーの不足	交通安全施設なので、危険箇所には随時設置していく。	交通安全施設整備事業
		街路灯や防犯灯の不足	自治会から要望があれば設置費用等に対し補助していく。	防犯等設置事業

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
—	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

地区の緑を増やす意味からも、それぞれの家で緑を増やす努力をしていただければ、まち全体で統一感を出せる。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み	評価値		あり	なし	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	定住人口	指数	100 (2,845人)	H17	108 (3,072人)	H22	確定 見込み	●	116 (3,304人)	○	あり なし	→	平成23年4月	平成23年3月末時点の住民基本台帳の地区内人口を基に確定値を求める。	
指標2	公民館利用者数	指数	100 (27,824人)	H17	120 (33,388人)	H22	確定 見込み	●	172 (47,789人)	○	あり なし	→	平成23年4月	平成23年4月に平成22年度の公民館利用者数を集計することから、集計結果を基に平成22年度の確定値を求める。	
指標3	さかなセンター利用者数	指数	100 (1,507,051人)	H17	105 (1,582,403人)	H22	確定 見込み	●	108 (1,627,829人)	○	あり なし	→	平成23年4月	平成23年4月に、さかなセンターが作成している「月別入場者数及び観光バス台数実績表」の平成22年度の数値が確定することから、この数値を基に確定値を求める。	
指標4				H		H	確定 見込み				あり なし	→			
指標5				H		H	確定 見込み				あり なし	→			
その他の数値指標1	業務系建築物建築件数	件	52	H13~ H17の計			確定 見込み	●	64 (H18~H22の計)			→	平成23年5月	平成23年5月に平成22年度の業務系建築物の確認申請件数が確定することから、集計結果により確定値を求める。	
その他の数値指標2				H			確定 見込み					→			
その他の数値指標3				H			確定 見込み					→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	モニタリングを実施したことにより、交付期間の各時点において事業の効果を確認することができた。	焼津中部地区においても毎年の指標データを算出し、事業期間途中での効果を検証するため、モニタリングを実施する。
	うまくいかなかった点	基準年度となる平成17年度及びその前年度の平成16年度は、公民館の建替え期間を含んでいるため、公民館利用者数が少なかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	事業の進捗が数値目標に確実に反映されたため、整合性が確認できた。	焼津中部地区においても進捗管理を行い数値目標との整合性を確認していく。
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	住民参加のワークショップを行うことにより、市と市民による協働活動を行うことができた。モニタリング結果に対し助言を行う焼津IC周辺地区まちづくり交付金事業推進専門家委員会に住民委員が参加できた。	焼津中部地区においてもモニタリング等を実施し、まちづくりに住民の意見を積極的に取り入れていくことが有効である。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	毎年のモニタリングを行ったため、事業の進捗とモニタリングを行った各時点での指標の達成状況が確認できた。	焼津中部地区においてもモニタリングを実施し、各時点での指標の達成状況を確認していく。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・事後評価を予定している地区の名称

平成26年度に焼津中部地区において事後評価を実施予定。当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価をしたい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	H22.10.15～H22.10.28	H22.10.15～H22.10.28	課宛のメール 意見提出様式を区画整理課へ提出	区画整理課
広報掲載・回覧・個別配布	広報誌に、ホームページ・情報公開コーナー・公民館で閲覧できることを掲載	H22.10.15	H22.10.15～H22.10.28		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	情報公開コーナー、大村公民館にて閲覧	H22.10.15～H22.10.28	H22.10.15～H22.10.28	意見提出様式を情報公開コーナー、公民館へ提出 区画整理課へ返信用封筒で郵送で提出	
	地区住民アンケート	H22.9.27	H22.9.27～H22.10.8		

住民の意見	<p>・地区内住民から無作為に400名を抽出して実施した『焼津IC周辺地区のまちづくりに関するアンケート』では、192名からご回答いただきました。 「あなたは、5年前と比べて、あなたのお住みになっている地区が住み良いまちになったと思いますか？」との設問に対し、住み良いまちになったと回答された方が47%、そう思わないと回答された方が30%でした。</p> <p>・アンケート回答者400名のうち129名の方が自由意見欄に何らかの意見を書いてくださいました。 代表的な意見(要望を含む)は以下のとおりでした。 (改善された点について) ・道路が整備されたことにより交通の便が良くなった。 ・街並みや景観が美しくなった。 ・商業施設が増え生活が便利になった。 ・水害の心配がなくなった。 (新たな課題や残された課題について) ・住宅地でもスピードを出す車が増えた。 ・建物が建ち並び見通しの悪い交差点が増えたため、カーブミラーを増やして欲しい。 ・街灯が少なくて危ない(怖い)ところが多いので街灯を増やして欲しい。 ・街並みはきれいになったが、さらに電柱がなくなればもっと良くなると思う。 ・未整備の公園の早期整備に期待している。また、既存の公園も遊具や駐車場など使い勝手に配慮した改善を望む。 ・治安や住民のマナーは悪くなったように思われる。 ・バスの利便性が相変わらず悪いままである。人口は増えているので、バス停や便数を増やして欲しい。</p>
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	西 建吾 元財団法人都市計画協会専務理事 木下 瑞夫 明星大学教授	平成22年11月8日	区画整理課、企画調整課	焼津1C周辺地区都市再生整備計画評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	藁科 光生 天覚寺八幡王地区画整理評価員 伊東 ルミ子 焼津市大村公民館花の会代表 伊東 小夜子 にぎわい通り街路樹ワークショップ参加者				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	事後評価手続きが方法書に基づき適切に進められたことを確認した。
	成果の評価	目標値が達成されたということは確認できたが、公表する際には目標値の設定方法がわかるようにした方が親切である。指標2公民館利用者数は、基準年度の利用者数が他の年度に比べて減少しているため、減少した年度と比べて増加したというのではなく、減少した年度を除いて増加傾向であることをアピールしたほうがよい。
	実施過程の評価	実施過程は適切に行われており、その評価は妥当であることを確認した。
	効果発現要因の整理	指標3さかなセンター入場者数は事業の成果より、景気等の社会的な要因に影響を受けられるため、各事業の成果との関連性がわかりにくい。
	事後評価原案の公表の妥当性	公表方法は妥当であることを確認した。
	その他	事業の成果について、地区住民へのアンケートを取ったことは非常に大切なことであった。一般の方に公表するのなら、住民意見欄に満足しているとか、満足していないといったパーセントを入れると住民の方々にとって内容がわかりやすくなる。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であることを確認した。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	まちの景観や土台という基盤は非常によくできていると思いますが、上の上のってきているものが少しばらばらな感じが見られます。地区の緑を増やすという意味からも、それぞれの家で緑を増やす努力をしていただければ見栄えがします。地区全体で住民の方が一緒になってやる仕組みを作って続けていくことが新旧住民のコミュニケーションをとるうえで大切だと思います。リーバーサイド遊歩道に何か工夫して楽しくなるようなもの、人が来たくなるようなものを作ればもっと利用が増えると思います。
	フォローアップ	フォローアップ計画は妥当であることを確認した。
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であることを確認した。
その他	ホームページに事後評価結果を公開するときに、事後評価シートだけ公開するのではなく、事業の成果をPRする資料を追加して市民にわかりやすく公開したほうがよい。	

都市再生整備計画(精算)

やいづ しゅうへん ちく
焼津IC周辺地区

しずおか やいづし
静岡県 焼津市

平成23年 3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	静岡県	市町村名	焼津市	地区名	焼津IC周辺地区	面積	120 ha		
計画期間	平成	18年度～	平成	22年度	交付期間	平成	18年度～	平成	22年度

目標

焼津インターチェンジに隣接する立地条件を生かし、まちの顔づくりと多様な交流による活気あるまちづくりを進める。

目標1 来訪者に誇れる住民がすこしやすい焼津インターチェンジ周辺顔づくり

目標2 住民間のコミュニケーションあふれる活気あるまちづくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

(経緯)

焼津インターチェンジ周辺地区では、東名高速道路焼津インターチェンジの開設等により住宅、工場、業務施設等が相次ぎ進出し急速に宅地化が進んだ。土地利用の混在とともに、道路・河川の未整備、冠水被害など都市機能上多くの問題を抱えていた。このため、昭和56年、インターチェンジに隣接する地理的有利性を生かし健全な市街地の形成を図る目的で、計画地の一部である八幡地区(約68ヘクタール)の土地区画整理事業が認可され、平成7年に完了した。大覚寺八幡地区(約49ヘクタール)については、平成6年に土地区画整理事業が認可され、平成21年の完成を目標に現在、事業が進められている。

土地区画整理事業によって基盤整備が進んだことにより、インターチェンジに隣接して「焼津さかなセンター」が開設、年間160万人(平成16年実績)を乗客する。また、地区内を貫通する国道150号沿いには、自動車販売、飲食店、釣具などの大型店舗、病院などが進出し、大型量販店も近くオープン予定である。

(現況)

・焼津インターチェンジ周辺地区は焼津駅より1.5km以上離れているため、駅までの交通手段はバスを利用する必要があるが、市内循環バスは1時間に1本と運行本数が少なく、交通利便性が必ずしも良くない。このことは、住民の生活利便性を阻害するとともに、保留地処分の障害となっている。

・土地区画整理事業施行後、戸建住宅とともに、賃貸アパートなど多様な住宅が建設され新住民が増えたが、町内会への加入率も低く、新住民とのコミュニケーションがとりにくいという問題が指摘されている。特に、賃貸アパートに移り住んできた若者や外国人の中にはゴミ出しなどの生活ルールを守らず、地域で問題となり始めている。

- ・人口の増加に伴い、空き巣、痴漢、自転車の盗難などの犯罪が増えている。
- ・六間川をはじめとして大きな河川があり、緑も豊かで自然環境や景観に恵まれている。
- ・焼津市総合福祉会館が地区内に建設され、焼津市における福祉の拠点的ゾーンとなっている。
- ・地区住民からも、「陸の玄関口」として意識されており、来訪者との共存が課題と認識されている。

◇焼津の陸の玄関としての顔づくり

- ・まちの情報発信、景観整備

◇地域コミュニティの再生

- ・新旧住民の交流の促進、転入者への生活ルールの浸透、住民が集える場や機会づくり

◇自然資源を生かしたまちづくり

- ・河川空間等を活かした歩行者空間のネットワーク形成

◇交通利便性の改善

- ・焼津駅と当地区を結ぶ公共交通の強化、総合福祉会館・焼津さかなセンターと市内主要施設を結ぶ公共交通の強化。

将来ビジョン(中長期)

○第四次焼津市総合計画では、以下の施策が位置づけられている。

- ・ゆとりある住宅地を形成するため、大覚寺八幡地区等の土地区画整理事業を計画的に推進する。
- ・活力あるコミュニティ活動の振興を図るため、「地域活動の支援」「指導者等人材の活用」「市民活動組織等との連携の促進」「地域施設の整備・運営等への参加の促進」を図る。
- ・緑豊かな都市環境を形成するため、「地域の特性に応じた樹種の選定を行い、道路の緑化を進める。」

○焼津市都市計画マスタープランでは、以下の施策が位置づけられている。

- ・地域の将来像:「潤いと賑わいのある焼津の玄関口 大村」
- 1)「潤いのある健康のまち大村」:河川の自然環境を適切に管理し、潤いが身近に感じられる空間を創出する。
- 2)「焼津の玄関口にふさわしいまち大村」:焼津インターチェンジ及びその周辺部を焼津の玄関口としてふさわしくするため、利便性の向上や有効活用を図る。
- 3)「みんなで作る住みよい大村」:楽しいイベントや講座などの開催により、地域住民の輪を広げ、道路や公園の清掃・管理などの地域活動やまちづくりにみんなが積極的に参加し、住民と行政が一体となったまちづくりを支援する。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
定住人口	指数	平成17年を100とする指数	区画整理の進展に伴う定住人口の増加を把握する。	100	H17	108	H22
公民館利用者数	指数	平成17年を100とする指数	交流の増加により活気あるコミュニティの状況を把握する。	100	H17	120	H22
さかなセンター入場者数	指標	平成17年度を100とする指数	来訪者に誇れる陸の玄関口としての交流人口の増加を把握する。	100	H17	105	H22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>○来訪者に誇れる住民がすごしやすい焼津インターチェンジ周辺顔づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼津インターチェンジを使う来訪者、焼津さかなセンター等の市内観光施設への来訪者のための情報環境を整備する。 ・総合福祉会館・さかなセンターと焼津駅などの市内の主要施設を結ぶ公共交通を強化する。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(基幹事業):市内案内看板設置事業(焼津インターチェンジ周辺) ・まちづくり活動推進事業(提案事業):まちの顔づくり専門家派遣事業(ワークショップによる計画づくり) ・事業活用調査(提案事業):交通状況調査事業
<p>○住民間のコミュニケーションあふれる活気あるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定住人口の増加を図り、活気あるコミュニティを形成する。 ・新旧住民の交流を図ることによって、豊かなコミュニティ活動があり安全・安心な地域づくりを推進する。 ・地区内の主要公共施設を巡回しながら地区と焼津駅などを結ぶ公共交通を強化する。 ・河川沿いの水と緑のネットワークと新たに整備する歩行者のネットワークを結び、地区全体を結ぶ緑と歩行者のネットワーク形成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業(基幹事業):大覚寺八楠土地区画整理事業 ・公園(基幹事業):大覚寺2号公園整備事業 ・地域創造支援事業(提案事業):定住促進宅地造成事業 ・地域創造支援事業(提案事業):定住促進広報事業 ・まちづくり活動推進事業(提案事業):まちの顔づくり専門家派遣事業(地域交流イベント、街のガイド作成、まちのルール普及啓発活動など新旧住民の交流を促進する事業の支援) ・事業活用調査(提案事業):まちづくりインフォメーションセンター実験事業(さかなセンター内) ・地域生活基盤施設(基幹事業):同時通報無線子局整備事業(加茂公園) ・事業活用調査(提案事業):交通状況調査事業 ・土地区画整理事業(基幹事業):大覚寺八楠土地区画整理事業 ・地域創造支援事業(提案事業):にぎわい通り創出事業(果樹のみち・植栽整備) ・地域創造支援事業(提案事業):リバーサイド遊歩道整備事業(川沿いの遊歩道) ・まちづくり活動推進事業(提案事業):まちの顔づくり専門家派遣事業(ワークショップによる計画づくり・運営管理の仕組みづくり)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成17年11月に実施したまちづくりワークショップを契機として、地域コミュニティ活動に対する期待感が生まれている。 ・計画推進のための調査を実施し、これを評価し改善策を検討する組織を設ける。 	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	2,773.4	交付限度額	1,109.4	国費率	0.400
---------	---------	-------	---------	-----	-------

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路	道路													
公園	街区公園整備	大覚寺2号公園	市	直	0.25ha	H21	H22	H21	H22	40.0	40.0			40.0
下水道														
河川														
共同駐車場														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設	市内案内看板設置等	焼津インターチェンジ周辺地	市	直		H18	H22	H18	H22	5.9	5.9			5.9
高質空間形成施設														
高次都市施設														
既存建造物活用事業														
都市再生交通拠点整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型 沿道等整備型 密集住宅市街地整備型 耐震改修促進型													
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
都心共同住宅供給事業														
街なみ環境整備事業														
人にやさしいまちづくり事業														
優良建築物等整備事業														
住宅地区改良事業等														
土地区画整理事業		大覚寺八楠土地区画整理事業	市	直	48.9ha	H6	H23	H18	H22	2,477.4	2,318.4			2,318.4
市街地再開発事業														
防災街区整備事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
合計										2,523.3	2,364.3	0	0	2,364.3

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業	にぎわい通り創出	東名高速沿い区画道路	市	直	L= 553m			H18	H18	2.5	2.5			2.5
	リバーサイド遊歩道整備	六間川沿い	市	直	L= 1,650m			H18	H22	74.5	74.5			74.5
	定住促進宅地造成事業	大覚寺八楠地区	市	直	A=86,690㎡			H19	H22	284.5	284.5			284.5
	定住促進広報事業	大覚寺八楠地区	市	直				H19	H22	11.9	11.9			11.9
事業活用調査	まちづくりインフォメーションセンター実験	さかなセンター内	市	直				H18	H19	2.6	2.6			2.6
	交通状況調査	計画地区～市内主要施設	市	直				H19	H21	8.7	8.7			8.7
まちづくり活動推進事業	まちの顔づくり専門家派遣	計画地区	市	直	120ha			H18	H22	24.4	24.4			24.4
合計										409.1	409.1	0	0	409.1

合計(A+B) 2,773.4

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)			事業期間		全体事業費	
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度		終了年度
土地区画整理事業(特会)	大覚寺八楠	焼津市	国土交通省	48.9ha		○			H6	H22	3,007
土地区画整理事業(地方特定)	大覚寺八楠	焼津市					○				1,598
土地区画整理事業(公園公管金)	大覚寺八楠	焼津市									2,986
土地区画整理事業(市単独)	大覚寺八楠	焼津市			○				H6	H23	2,639
事業活用調査	さかなセンター内	焼津市					○		H20	H22	6
合計											10,236